

日時：2013年8月8日（木）10：00～13：35

場所：東洋大学2号館第1会議室

## 日本パーソナリティ心理学会第110回常任理事会

出席者：浮谷秀一（理事長）、中村真（副理事長）、松田英子、守谷順（国際交流委員長代理）、山崎晴美、渡邊芳之

事務局：加藤司（事務局長）、

委任：家島明彦、小塩真司、二宮克美、松田浩平

欠席者：太幡直也

### 報告事項

#### I 理事長挨拶

#### II 各種委員会報告

##### 1 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

###### (1) 「パーソナリティ研究」の編集発行状況について

###### 1) 「パーソナリティ研究」第22巻第1号の発行状況について

第22巻第1号は論文11本（原著3，資料3，ショートレポート5）を掲載，現在印刷中である。8月中には発行の見通しである。

###### 2) 「パーソナリティ研究」第22巻第2号の編集状況について

第22巻第2号は以下の11本（原著5，資料2，ショートレポート4）を掲載して，6月28日に入稿した。

論文番号	投稿番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
22-2-1	A-308	原著	多特性多方法行列に対する確認的因子分析モデルにおいて信頼性および妥当性の解釈を一通りに定める方法—方法因子の因子得点の和が0になるという制約の下で—	久保沙織	2012/6/5	2013/3/30
22-2-2	A-295	原著	注意制御、マインドフルネス、脱中心化が心配へ及ぼす影響	田中圭介	2011/12/18	2013/4/5
22-2-3	A-313	原著	自尊心のレベル・変動性と将来への肯定的な期待との関連：遠い将来への期待が持つ脅威軽減機能について	福沢愛	2012/8/27	2013/4/18
22-2-4	A-303	原著	境界性・依存性・回避性パーソナリティ間のオーバーラップとそれぞれの独自性	市川玲子	2012/3/29	2013/5/13
22-2-5	A-322	原著	注意の定位機能とマインドフルネス傾向の関連—注意の喚起機能による調整効果—	田中圭介	2013/2/26	2013/5/30
22-2-6	A-288	資料	コミュニケーション・スキルの実践的研究に向けたENDCOREモデルの実証的・概念的検討	藤本学	2011/9/12	2013/3/30
22-2-7	B-80	資料	青年・成人期の愛着関係での悲しき予言の自己成達は友人関係でも成立するのか？	金政祐司	2012/7/31	2013/4/18
22-2-8	S-218	ショートレポート	青年期女性の外見に関する否定的感情測定尺度(状態版)の開発	安保理恵子	2012/3/4	2013/4/5
22-2-9	S-235	ショートレポート	抑うつ対処の自己効力感による抑うつ低減プロセス—気晴らしへの集中に着目して—	及川恵	2012/12/2	2013/4/5
22-2-10	S-234	ショートレポート	抑うつとストレスの関連に対する省察の調整作用	森正樹	2012/11/16	2013/5/22
22-2-11	S-233	ショートレポート	GDS(老人用うつ尺度)短縮版の因子構造に関する研究—信頼性と妥当性およびカットオフポイントの検討—	渡辺舞	2012/10/6	2013/5/30

###### 3) 「パーソナリティ研究」第22巻第3号以降の編集状況について

7月末現在で採択となっている論文なし。

## (2) 投稿状況、審査状況について

### 1) 投稿状況について

昨年8月から今年7月までの投稿状況は下表の通りである。

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2012	8	2	0	1	0	3
	9	0	2	0	0	2
	10	1	1	2	0	4
	11	1	3	1	0	5
	12	2	0	2	0	4
2013	1	2	0	2	0	4
	2	4	1	0	0	5
	3	0	1	2	0	3
	4	3	0	1	0	4
	5	1	2	4	0	7
	6	2	0	1	0	3
	7	0	0	3	0	3
<b>合計</b>		<b>18</b>	<b>10</b>	<b>19</b>	<b>0</b>	<b>47</b>

### 2) 審査状況について

昨年8月から今年7月までの審査状況は以下の通りである。

年月	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下	備考
2012/8	2	7	1	0	
9	3	5	0	1	
10	2	15	1	0	
11	7	9	3	0	
12	2	6	0	1	
2013/1	1	2	1	1	
2	1	8	3	2	
3	4	6	2	0	
4	5	7	1	0	
5	4	4	0	0	
6	0	7	2	1	
7	0	11	1	0	
<b>合計</b>	<b>31</b>	<b>87</b>	<b>15</b>	<b>6</b>	

## (3) その他

### 1) 投稿論文種別の変更について

8月1日付で「編集規程」を改訂し投稿論文の種別をこれまでの「原著」「資料」「ショートレポート」「展望」「討論」の5種類から「原著」「ショートレポート」の2種類のみとした。電子投稿システムの設定も同時に変更した。

### 2 経常的研究交流委員会（代理：加藤事務局長）

特に報告なし

### 3 広報委員会（代理：加藤事務局長）

大会企画と YPP2014 は順調に進行している。

現副委員長・浅野良輔（浜松医科大学）の任期を 2014 年大会までとする案が提案され、任期の延長ではなく、再任することが承認された。

### 4 国際交流委員会（代理：守谷順委員）

De Fruyt 先生 招待講演

日時：10 月 12 日 13:45 から 15:30

演題：子ども期から成人期にかけての適応的・不適応的なパーソナリティ特性  
<勉強会>

日時：8 月 31 日 14:00 から

場所：（東京会場）早稲田大学 戸山キャンパス  
（京都会場）京都大学 教育学部

### 5 学会活性化委員会（松田英子委員長）

大会発表賞を重複して受賞することを承認するかどうか、来年以降整備することにした。

### 6 各種電子化検討小委員会（代理：加藤事務局長）

報告なし

### 7 選挙規程検討小委員会（中村委員長）

日本パーソナリティ心理学会会則（改定案）が報告され、承認された。

### 8 学会 20 年史編纂委員会（浮谷委員）

委員会が開催され、編纂の方向性、概要が決定し、その報告がなされた。

## Ⅲ 日本心理学諸学会連合（浮谷理事長）

### 1 日本心理学諸学会連合について

国家資格化を推進する議員連盟総会について報告された。

日本心理研修センターについての報告がなされた。

### 2 心理学検定について（浮谷理事長）

受験者予定数は 3,640 名であり、検定試験が実施される。

#### IV 事務局報告（加藤事務局長）

審議事項に回す。

#### V 第23回大会準備状況について

- 1 8月最終週にプログラム発送予定
- 2 理事会および懇親会について
- 3 原稿フォーマットに関するクレーム対応の報告

#### VI その他

特になし。

### 審議事項

#### I 2011年度決算・2012年度予算に関する件（山崎晴美財務担当常任理事）

修正のうえ決算案が承認された。修正のうえ、MLにて最終的に審議することになった。

#### II 第109回常任理事会議事録承認に関する件（加藤司事務局長）

承認された。

#### III 新入会員に関する件（加藤事務局長）

##### 1 新入会希望者の件

- (1) ML承認済み 一般会員以上1名が追認された。
- (2) 未承認事項（資料別紙） 院生会員2名が承認された。

##### 2 退会希望者

4名が承認された。

以上の承認を受けて、8月1日現在、会員総数は909名である  
（一般会員602名、院生会員292名、学生会員6名、名誉会員8名、賛助会員1名）。

#### IV その他

##### 1 学会賞

学会賞の設立の有無に関して、学会活性化委員会で検討することになった。

##### 2 その他

なし

次回、江戸川大学にて理事会開催